

ていばく展示場紹介③

「通信博物館の100年展」 100周年記念展示！

6月号に続いて平成14年6月27日(木)～7月28日(日)まで開催される「100周年記念展示」について、主な展示資料を紹介します。

「通信博物館の100歳」コーナー 博物館の100年を振り返る写真・ポスター・招待券や切手になった「通信総合博物館竣工記念」切手原画などを展示します。

「再現展示」コーナー 万国郵便連合加盟25周年記念展の展示品より抜粋して、切手葉書の原版・郵便行李・袋井検査済印、駅鈴型香合などを展示します。

中でも袋井検査済印は、郵便創業時に袋井の郵便取扱所で使用した通信日付印で木製の大変貴重なものです。

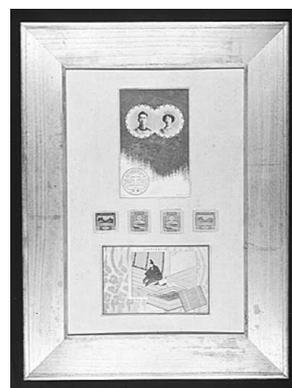
「博物館のぶれみあむ」コーナー 常設展示や特別展で展示をする機会の少ない希少価値のある資料として、竜切手シート・キ半銭桜切手シート・手彫切手エンタイア・皇室献上切手(控)などを展示します。

「記念絵はがきの100歳」コーナー 通信省発行の記念絵はがきが発行されて100年になることから、その記念絵はがきの変遷や関連資料などを多数展示します。中でも鍋木清方や藤田嗣治、川端龍子などの有名な画家が描いた記念絵はがきの原画も展示します。

今回は、普段展示しない秘蔵資料の展示をします。また、絵葉書を毎日先着200名に配布します。是非お出かけください。



芝公園内時代の特別入場券



皇室献上切手(控)

学芸員雑記帳

博物館創設の功労者「樋畑雪湖」

明治35年6月20日に郵便博物館が通信省構内に創設されました。

この生みの親であり育ての親が樋畑正太郎(雪湖)です。

雪湖は、信州松代藩士の子として安政5年江戸に生まれました。

長野県庁の図生から長野県史誌編輯掛の図生となり駅逡掛も兼務しました。その後、通信省に入り、郵便機械物品の改良研究や郵便切手類の図案制作に従事。これらのものを整備・陳列して郵便博物館を開館させました。

開館後は、博物館主任として郵便用品の改良・郵便切手や絵はがきのデザイン作成のかたわら、通信・交通資料の収集・研究・展示に邁進しました。生涯を博物館発展と日本交通史の研究家として捧げました。

また、郵便切手や絵葉書・通信日付印関係などの著書のほか、交通史関係では「江戸時代の交通文化」などを多数残しています。(井上恵子)



樋畑雪湖像
岡田三郎助画



雪湖デザインの旧版富士鹿切手
大正11年(1922)1月1日発行